



## 国家試験対策

医療人として働くために必要な国家資格取得を支援しています。

### 鍼灸学科

国家資格は鍼灸師として働くための最低条件。3年次より国家試験対策の授業もはじまります。3年次には、西洋医学や現代医学の基礎知識を確実なものとし、4年次には臨床医学に関連する知識を勉強し、効率的な知識の定着を図ります。

#### オリジナルの国試対策用教材

最近の国家試験の内容をよく知る若手教員中心のワーキンググループが出題傾向を分析。対策ポイントを押さえたオリジナル教材を使った授業を展開しています。

#### 手厚い個別フォロー

毎回の授業で小テストを実施することで個々の理解度や到達度を確認。試験勉強の仕方から目標設定に至るまで学生のレベルに応じた個別指導を行います。

### 柔道整復学科

柔道整復師国家試験合格には、弱点克服が不可欠です。本学では、模擬試験を実施し、その結果から学生個々の弱点を把握します。その後それぞれの試験科目の専任教員が補講授業を行い、しっかりと知識の定着を図ります。

#### 定期的な模擬試験を実施

3年次から定期的な模擬試験を実施。直後の個別面談で勉強法を指導します。正確な実力の把握は早期の意識づけを促します。

#### 保護者との連携による環境づくり

模擬試験の結果を保護者と共有し、家庭においても国試対策に専念できる環境づくりのご協力をお願いしています。

### 看護学科

「看護師」と「保健師」は「保健師助産師看護師法」に定められた国家資格です。「看護師免許」は看護師国家試験に合格した者に与えられ、「保健師免許」は看護師国家試験と保健師国家試験の両方に合格した者に与えられます。本学では、「看護師」については全員、「保健師」については保健師コースを選択した者(定員20名)が国家試験にチャレンジできます。

#### 自主性と思考力を高める学習システム

既に導入しているe-ラーニングシステムに加え、クラウド型学習システムを導入。実践的な看護技術が動画で配信されるため、具体的なイメージを持って授業に参加できます。空き時間を有効に活用し、自主的に学習できる環境が整っています。国家試験対策にもこのe-ラーニングシステムを活用し、学生の自主的な学習活動を支援しています。

## 卒業生からのメッセージ

### 鍼灸学科

#01

大切な人を目指すゴールに送り届ける。やりがいの大きな仕事です。

はり師・きゅう師

京葉治療院 勤務

千葉県立小金高等学校 出身  
[2014年卒業]

樋口 健太 さん

初めて出会った鍼灸師は花田学園出身の先生。治療家を目指して打ち込んだ授業。

鍼灸師を志すようになったのは、中学生の頃、母親が鍼灸の出張治療を受けていたことがきっかけ。自身も部活中のケガを診ていただき、鍼の効果を感じていました。その先生が花田学園出身だったことから東京有明医療大学に入学。在学中は実際の治療現場で学ぶ機会も多く、国家資格のためだけでなく、治療家にふさわしい知識と技術を意識しながら、一つひとつの授業に熱意を持って取り組むことができました。



治療に欠かせない、こころとからだを「診る」技術と「伝える」技術。

大学卒業後は、出張鍼灸・リハビリを専門とする治療院に就職。ご自宅で施術をすることは、患者さんの世界に足を踏み入れるということ。身体を診ることはもちろん、日常生活や人生の歩みから「患者さん自身が前向きになる治療」を考えることが大切だと感じています。患者さんには医学的な説明を望む方もいれば、わかりやすさを求める方も。カンファレンスや勉強会で技術を磨く日々が続いています。

#02

健やかな美しさを引き出す美容鍼灸。最高の技術とホスピタリティを求めて。

はり師・きゅう師

CALISTA(カリスタ株式会社) 勤務

埼玉県 大妻嵐山高等学校 出身  
[2014年卒業]

山口 紗也加 さん



将来の方向性を定めた鍼灸との出会い。その可能性に魅了されています。

鍼灸との出会いは、バスケットボール部のマネージャーをしていた高校時代。大学で鍼灸を学ぶなかで、女性特有の疾患や美容への効果に興味を持つように。将来は、同じ女性のために自分にしかできないことを仕事にしたいと思い、美容鍼灸の道を目指しました。鍼灸師として施術にあたる今も、さまざまな症状に直接働きかけることのできる鍼灸の可能性はとても素晴らしいものだと感じています。

目標は、女性の美と健康をサポートできる鍼灸師。

勤務先は女性限定のサロン。ここ1年の間に、ご指名のお客さまも増え、後輩育成にも携わるようになりました。社内外の勉強会に参加し、鍼灸師としての研鑽を積んでいます。また、お客さまの生活に一步踏み込んだアドバイスができるよう、セルフケアの方法や漢方、食事、アロマなども勉強中。女性の人生をサポートできる鍼灸師を目指し、これからも努力を重ねたいと考えています。

## 卒業生からのメッセージ

#03

大きなやりがいは  
患者さんの社会復帰と笑顔。

柔道整復師

根本接骨院 勤務

茨城県 常磐大学高等学校 出身  
[ 2013年卒業 ]

中川 翔太 さん

臨床経験の豊富な先生方による  
実践的な授業が活かされています。

大学時代の恩師である根本先生の接骨院で、骨折や脱臼、捻挫、打撲などの治療にあたっています。それぞれの症状に合わせた効果的な治療を考え、患者さんの笑顔を見られたときにやりがいを感じます。在学中は、多くの臨床経験を持つ東京有明医療大学の先生方から、授業内容だけでなく現場で役立つ治療やコミュニケーションの方法を教わりました。さらに開業時のビジョンまで想い描けるまでに成長しました。



父親の背中を見て選んだ道。  
信頼される柔道整復師を目指したい。

高校3年のとき、接骨院を開業していた父親と患者さんのやりとりを見て、将来は自分もこんな仕事ができたいと東京有明医療大学に入学。勉強すればするほど知りたいことが増え、より多くの医療本を読むようになりました。現在も、地域の方に信頼される柔道整復師、そして子どもや選手にケガなく楽しくスポーツを楽しんでもらえるようなアスレティックトレーナーを目標に、日々努力を重ねています。



#04

身体のこと、トレーニングのこと。  
目標は、幅広い知識を持つ治療家。

柔道整復師

エコルスタ整骨院 勤務

神奈川県 川崎市立橋高等学校 出身  
[ 2015年卒業 ]

水谷 真梨 さん

憧れの柔道整復師を目指して  
経験豊かな先生方に導かれた4年間。

高校時代に通院していた接骨院の柔道整復師の先生に憧れ、この道を目指しました。在学中は、少人数制の授業で経験豊富な先生方から手厚い指導を受け、先生方それぞれの技術や考え方を学ぶことができました。最も力を入れていたのは4年間の集大成である、卒業研究。卒業論文の作成から発表、そして学会発表にも参加したことで、人前で自分の考えを話すことに自信を持てるようになりました。

「誰かのために頑張れる」  
そんな治療家が増えることを願っています。

いろいろな治療現場を見学するなかで「幅広い層の患者さんのサポートがしたい」と、地域密着型の整骨院を志望し、現在は柔道整復師として、痛みを取り除くだけでなく、その症状を引き起こす根本的な原因にアプローチできる治療を心がけています。在学中は、専攻の柔道整復に加えアスレティックトレーナーコースを履修。たくさんの方の身体に触れた経験が今の仕事にとっても活かしています。

## 看護学科

#05

様々な人と交流することで成長。  
多くのひとの支えになりたい。

看護師

東京大学医学部附属病院 勤務

神奈川県立百合丘高等学校 出身  
[ 2013年卒業 ]

金丸 紘子 さん

東洋医学や海外研修での学び。  
視野を大きく広げた4年間。

看護師への思いが決意が変わったのは、看護師だった憧れの母が病気になり闘病生活を送っていたとき。病気で苦しむ人の助けになりたいと強く思うようになりました。在学時代は、鍼灸学科など医療系他学科との交流を通して他職種との医療連携や東洋医学についても学修。シンガポール国立大学への研修も刺激的な思い出です。シンガポールの高度な医療に触れ、改めて日本の医療制度を見つめ直す機会となりました。



看護師は、人の温もりを感じられる  
素晴らしい仕事。

東大病院の看護師として入院から処置、検査治療、退院までをサポートしています。業務に追われることもありますが、医師や看護スタッフ、コメディカルスタッフとの連携を図りながら成長を実感できる毎日。看護の積み重ねが患者さんやご家族の笑顔につながったとき、大きなやりがいを感じます。現在の目標は、緩和ケアについて理解を深め、認定看護師となること。多くの苦痛や不安を抱えるがん患者さんの支えになりたいと考えています。



#06

患者さんの気持ちを自問自答。  
心に寄り添う看護を。

看護師

東京大学医学部附属病院 勤務

千葉県 敬愛学園高等学校 出身  
[ 2013年卒業 ]

伊東 愛 さん

4年間を通じて行われた、  
東大病院実習が確かな力に。

幼少の頃から看護師は憧れの職業。ピンクの制服を着た優しい看護師さんが大好きでした。その後、母が出産前は看護師であったことを知り、憧れはいつしか将来の具体的な目標に。東大病院との出会いは、1年次から始まる実習でした。東京有明医療大学の病院実習のほとんどが、ここ東大病院で行われています。看護師となった今も理想の看護師を目指し、日々の挑戦は続いています。

安全で質の高い看護を目指して、  
看護スキルの向上に努める。

3つの外科が連携する混合病棟で、主に手術前後のケアを行っています。手術患部の観察や体液を排出するドレーン管理、抗がん剤のような内科的な処置、緩和ケアなど、その看護内容はさまざま。客観的・主観的な情報を集めて患者さんの状態を把握するアセスメントも大事な仕事です。大学時代から言われ続けてきたことですが、忙しい業務のなかでもつねに「なぜ?」という視点を持つことを心がけています。